（様式１）

県立取手第一高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

・本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。
・総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

（１）〔知識及び技能〕
地域社会や産業社会に関わる探究の過程で、課題解決に必要となる高度な知識及び技能を身に付けるとともに、学習活動全般や日常生活においても自ら課題を見つけ自律的に探究を進めることができる。

（２）〔思考力、判断力、表現力〕
地域社会や産業社会と自分自身との関わりから問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、それらを論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。

（３）〔学びに向かう力、人間性〕
地域社会や産業社会に関わる探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、他者の多様な立場や価値観を認め理解した上で、自分らしさを発揮して、社会に貢献しようとする態度を身に付ける。

総合的な探究の時間の学習評価

（１）〔知識及び技能〕
・課題の解決に必要となる高度な知識及び技能を身に付けている。
・学習活動全般や日常生活において自ら課題を見つけ、自律的に探究を進めることができる。
（２）〔思考力、判断力、表現力〕
・探究のプロセス（①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現）を多様な学びに適用し、その学びを深めることができる。
（３）〔学びに向かう力、人間性〕
・多様な情報を活用したり、異なる視点から考えたり、仲間との協力や地域等と交流をしたりなど、協働的に学ぶことができる。
［評価方法］
１.討論や発表の準備におけるグループ内での貢献度の評価《自己評価・相互評価》
２.討論や質疑における言語活動の記録による評価《授業担当者による評価》
３.各活動の計画書及び報告書、感想文、制作物などの蓄積（ポートフォリオ）を通して観られる変化による評価《自己評価・相互評価・授業担当者による評価》

生徒の実態

・基本的生活習慣が身に付いており、規範意識が高く、協調性に富む生徒が多いため、学校全体としては、明るく活気があり、地域社会からの信頼が厚く、期待されている。

・学習に関して、全体的に「現状に満足している」または「現状に甘んじている」傾向があるため、向上心に訴える指導だけで学習意欲を高めることは難しい。

・学習に関して、課題や定期考査への対応に終始し、知識・理解の長期的な定着を図ることができていない生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・生徒一人ひとりに誠実に向き合い、それぞれの個性に沿った、柔軟かつきめの細かい指導を行い、個々の成長を促す。

・３年間の段階的な指導体制の構築を図り、生徒のキャリア形成の進捗状況を見極め、配慮が必要な生徒を把握し、学校全体の共通理解のもと、適切な支援を行う。

目指す生徒の姿

・互いの敬意で結び付く集団を形成し、集団の目標達成に向けた協働的な活動ができる。

・地域社会や産業社会への参画に向けた各自のビジョンがあり、その実現を目指すキャリア形成の展開に沿って有意義な学びが行われている。

・探究心の連鎖によって、長期的な知識・理解の定着が図られる学習が行われている。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

＊３年間共通の課題「持続可能な社会の実現に寄与するための自己の在り方生き方とは?」
［１年次《1 単位》］
年次のテーマ「産業社会の在り方を知り、自己のキャリア形成を考える」
（１）〔知識及び技能〕
・産業社会の変遷と現状を把握し、その持続的な発展には新しい価値を創出する知恵や実行力が求められることを認識する。産業には多様な業種があることを知るとともに、自分の独自性を生かすことができる職業を選択するために、知識や視点を身に付ける。
（２）〔思考力・判断力・表現力〕
・産業社会が持続的に発展する上での課題を見つけ、関連する情報を整理・分析し、その解決方法を考察し、考察内容を論理的かつ効果的な表現にまとめ、他者に説明できるようにする。
（３）〔学びに向かう力、人間性等〕
・産業社会の持続的発展についての探究を通して、協働性や他者を理解する能力を養う。
・社会貢献の視点から自己と社会との関わりを探究することにより、自己理解を深め、自分の強みを活用したキャリア形成を進めていく態度を養う。

［２年次《１単位》］
年次のテーマ「自分の進路実現に向けた課題を設定し、自己の生き方を考える」
（１）〔知識及び技能〕
・地域社会や進路に関わる探究の過程で、課題解決に必要となる高度な知識及び技能を身に付けるとともに、学習全般や生活においても自ら課題を見つけ自律的に探究を進めようとする姿勢を身に付ける。
（２）〔思考力・判断力・表現力〕
地域社会や実生活と自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に整理・分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。
（３）〔学びに向かう力・人間性等〕
地域社会や進路に関わる探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、他者の多様な立場や価値観を認め理解した上で、自分らしさを発揮して社会貢献しようとする態度を身に付ける。

［３年次《アカデミ１単位、メカニック・情報技術・ビジネス２単位》］
年次のテーマ「探究を通して自分自身の進路を見出す」
（１）〔知識及び技能〕
・地域の持続的な発展は、それを左右する因子が多種多様であるため、地域全体で持続的な発展に寄与し得る因子を出し合いながら、協働して取り組まなければ実現しないことを認識する。
（２）〔思考力・判断力・表現力〕
・地域が持続的に発展する上での課題を見つけ、関連する情報を整理・分析し、その解決方法を考察し、考察内容を論理的で効果的な表現にまとめ、他者に説明できるようにする。
（３）〔学びに向かう力、人間性等〕
・社会貢献の視点から自己と地域社会との関わりを探究することにより、自己理解を深め、自分の強みを活用したキャリア形成を進めていく態度を養う。

学習活動、指導方法等

［１年次］
○学習活動
・外部講師による講演内容の活用等、「産業社会と人間」との連動を充分に図る。
・「産業社会の在り方」を理解した上で、『道徳』を通して社会における自己の「生き方」を考え、「キャリア形成」と関連付けた課題研究を通して社会参画への意欲を高める学習をする。
・学習活動をワークシートに記録し、キャリアパスポートを作成する。
○指導方法
・協働的な学習活動の充実
・生徒の課題意識を高め、深化させる支援
○使用教材等
・「ともに歩む」
・ワークシート（取手市役所などの外部機関により作成された資料等も含む）
・NOLTY スコラ　探究プログラム

［２年次］
○学習活動
・１年生で考えた自分のキャリア形成の自分の進路について調べ学習を通じて考え、比較・検討して今後の学習にどのように取り組むか考える。
・一人一課題を設定し、探究活動に取り組む。
○指導方法
・グループワークやまとめ活動などの協働的な学習活動の充実
・自分の進路について考えられるよう様々な選択肢の提示や調べ方の教授
・探究のサイクルを一つ一つ指導し、スパイラルになるように導く
○使用教材等
・マナビジョン（ベネッセ）

［３年次］
○学習活動
・個人研究（ゼミ形式）
・進路実現に向けて個人で課題を見つけ、研究テーマとして設定する。
・考察の根拠は、可能な限り、行政や地元企業から得られる具体的な情報やデータとする。
・7 月に最終発表会、12 月には各コースの合同発表会（年次全体）に向けて計画的に活動する。
・まとめとして、個人単位で研究レポート、ポスターを作成する。
○指導方法
・探究課題と教科・科目での学びとの関連を意識させる。
・協働的な学習活動を重視し、対話によって理解や考察が深まる学習スタイルを基本とする。
・生徒の課題意識を連続的に発展し、深化させる支援
○使用教材等
・ワークシート

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・チャレンジ・プロジェクト推進委員会（10 名）・・・総合学科としての学校の目標実現に向け，「産業社会と人間」との関連を考慮しながら指導計画を立案し，実施を管理する。

・授業担当者会議（各年次）・・・各年次で授業担当者（クラス担任及び副担任）が指導方法や評価観点，進捗状況について情報共有する。

・取手市役所との連携・・・「産業社会と人間」の授業での取手市との連携を有効活用する。

・「総合的な探究の時間」に係る校内研修会・・・「総探」の取組みが，教科・科目の学習等と連動した学校全体の取組みとなるよう，情報共有を図る。